

大阪府感染症発生動向調査週報（速報）

2021年 第48週（11月29日～12月5日）

今週のコメント

～感染性胃腸炎～ 手洗いの励行、排泄物の適切な処理が重要

定点把握感染症

「感染性胃腸炎 急増」

第48週の小児科定点疾患、眼科定点疾患の報告数の総計は 2,413例であり、前週比 17.5%増であった。

報告数の第1位は感染性胃腸炎で以下、手足口病、ヘルパンギーナ、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、突発性発しんの順で前週と変わりはなく、定点あたり報告数はそれぞれ 8.10、2.47、0.52、0.36、0.26である。

感染性胃腸炎は前週比 51%増の1,595例で、南河内13.31、大阪市北部10.36、大阪市南部9.72、北河内9.38、中河内8.70であった。

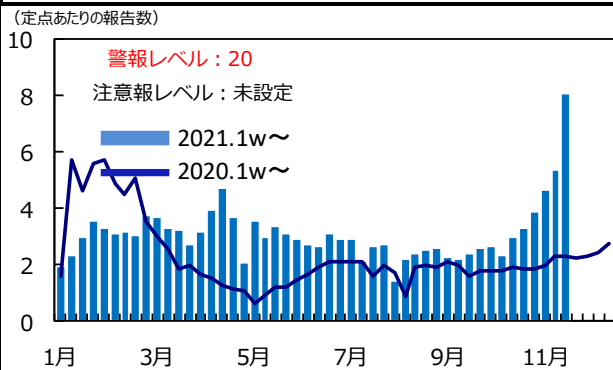
手足口病は27%減の486例で、南河内4.75、大阪市南部4.61、泉州3.50であり全てのブロックで警報レベル基準値の5を下回った。

ヘルパンギーナは16%減の103例で、泉州2.10、大阪市西部1.10、南河内0.44であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は15%増の71例で、中河内1.10、大阪市南部0.67、泉州0.55である。

感染性胃腸炎の報告が全ブロックで増加している。今後の動向に注意が必要である。

感染性胃腸炎



手足口病

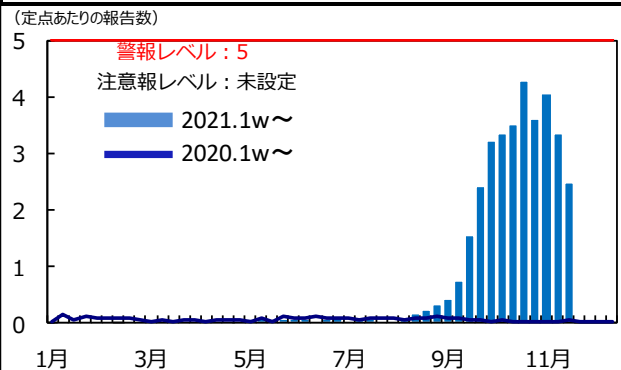


表 1. 大阪府小児科・眼科定点把握感染症の動向（2021年 第48週11月29日～12月5日）

第48週の順位	第47週の順位	感染症	2021年 第48週の 定点あたり 報告数	前週比 増減	2020年 第48週の 定点あたり 報告数	2021年第48週の 年齢別 患者発生数 最大割合
1	1	感染性胃腸炎	8.10	51%増	2.28	2歳_20%
2	2	手足口病	2.47	27%減	0.05	1歳_41%
3	3	ヘルパンギーナ	0.52	16%減	0.21	2歳_39%
4	4	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.36	15%増	0.54	5歳_18%
5	5	突発性発しん	0.26	12%減	0.34	1歳未満_38%
参考		インフルエンザ (インフルエンザ定点報告疾患)	0.00	増減なし	0.02	1歳未満(1例)_100%

突発性発しんについては、(1)季節変動はないこと、(2)毎週の定点あたり報告数は一定していること、(3)年次による差異もほとんどないことから、本文には詳細に記載していません。第36週からインフルエンザの新シーズンの集計が始まりました。

第48週のコメント

～E型肝炎～ 大阪府では、2018年以降毎年5～10名の報告があります

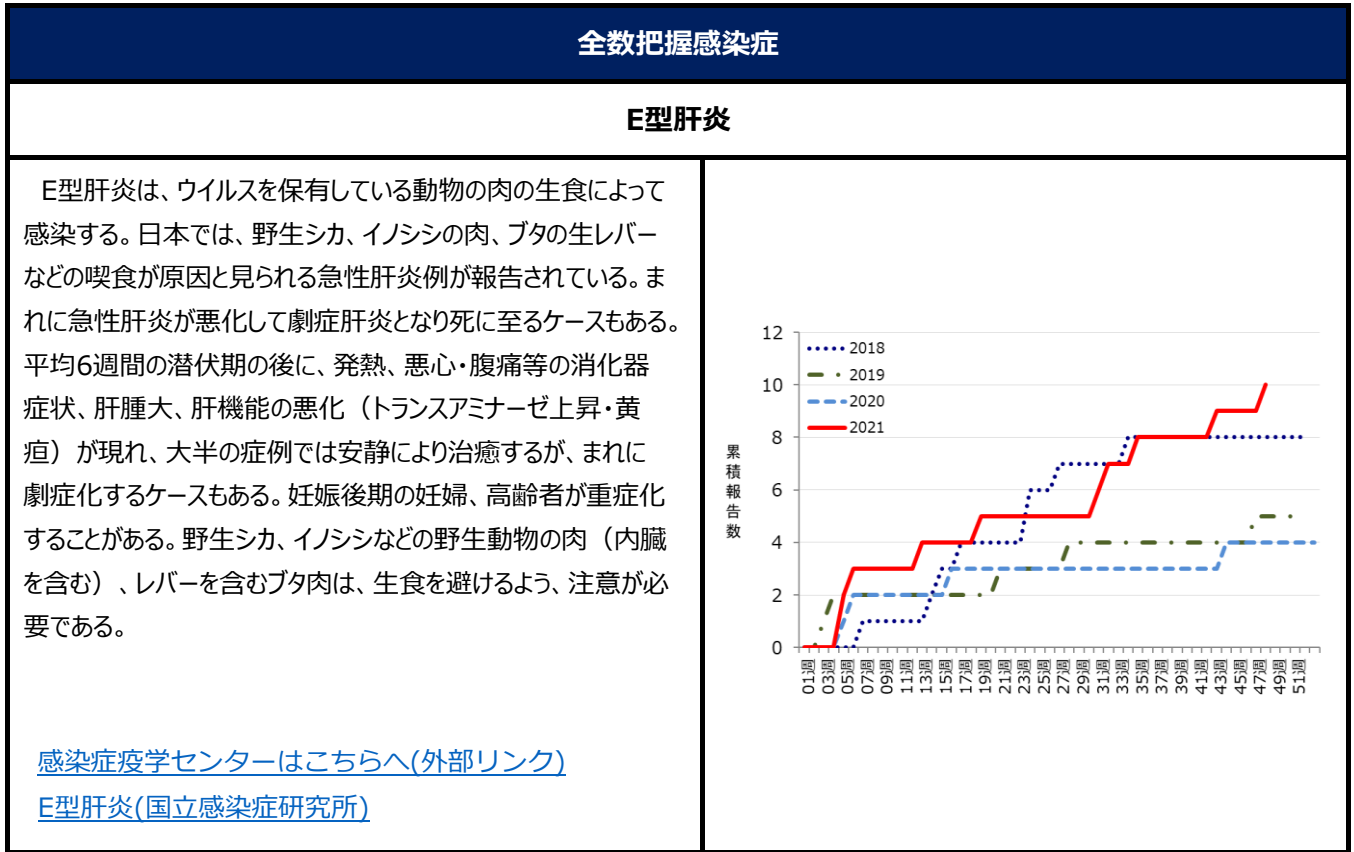


表 2. 大阪府全数報告数（2021年 第48週11月29日～12月5日）

注意：この週報は速報性を重視しておりますので、今後の調査に応じて若干の変更が生じることがあります
 （報告があった疾患のみ記載しています。詳細は感染症情報センターホームページ＞【週報】＞全数把握疾患 をご覧ください。）

	疾患名 ()内の病型は今週報告分のみ 府内累積報告数の内訳は省略	報告数	豊能	三島	北河内	中河内	南河内	堺市	泉州	大阪市	府内累積報告数
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	4		2	1					1	173
4類感染症	E型肝炎	1								1	10
	レジオネラ症（肺炎型）	2						1		1	128
5類感染症	アメーバ赤痢	1								1	43
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1								1	34
	侵襲性肺炎球菌感染症	1								1	87
	梅毒	6	1					1	1	3	760
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	94	2020年1月以降累計 203,207								
結核 (2021年10月分)	結核 新登録患者数：79名 (内 肺・喀痰塗抹陽性 28名) (府内累積報告数 925名、内 肺・喀痰塗抹陽性 360名)										

(2021年12月7日 集計分)

新型コロナウイルス感染症の報告数は、大阪府の報道発表の報告数を示しています。

[詳細はリンク先の『11月1日まで』と『11月2日以降』をご覧ください。](#)